

私の祖父は、税理士です。税理士とは、人々が税を納める手伝いをしたり、税を正しく納められているかをチェックしたりする仕事です。そこで、毎日税に関わっている祖父に税とは何かを教えてもらいました。

すると、祖父はヨーロッパのパーティーの例え話を挙げて、税の大切さを教えてくれました。そのパーティーでは、「一人一杯ワインを持ってきて、パーティーをしよう」と決められていたそうです。しかし、ある人はこう考えました。「一人くらい水を入れたところで分からないだろう」と。そして、ワインを集める器に一杯の水を入れました。しかし、パーティーに参加した客の大半が同じ考えをもって、器に水を入れていたので、ワインはきちんと集まらず、パーティーができなくなってしまったそうです。

祖父は、このパーティーと税金は同じだと教えてくれました。税金は、みんなから公平にお金を集めて、それを公平に使うものです。お金をたくさん持っている人からは、たくさん集めて、少ししか持っていない人からは、少し集めて、そのお金を使って、道路の整備したり、公園をつくったりします。そうすれば、みんな同じように、道路を通ったり、公園を利用したりできる、そういう仕組みだそうです。

この話の中で、私は「公平」というワードに疑問をもちました。「公平」とよく似た、「平等」というワードとの意味のちがいとは何だろうと思ったので、調べました。すると、「公平」は、ズルや不正がないことを意味し、「平等」は、権利が一樣であることを意味すると分かりました。このことから、「税を公平に集める」と祖父が表現したのは、みんなが正しく税を納める必要があるということと、納める人に合わせて、納めなければならない負担が変わるということを表現しようとしたのだと考えました。

これらのエピソードから、税は全ての人が正しく納めることがとても大切なのだと感じました。はじめに書いたヨーロッパのパーティーの話では、きちんとワインを持ってきた人もいたのに、水を入れた人々のせいで、ワインをのむことができませんでした。同じように、税を納めるのをごまかす人がでてきてしまったら、きちんと税を納めている人をまきこんで、全ての人に迷惑がかかってしまいます。また、集められた税金は社会保障制度の充実や教育、安全な生活、公害対策や自然環境の保護・整備のために使われています。もし、税金がなくなってしまうたら、ゴミは回収されなくなるし、消防や警察もなくなるし、道路や橋はどんどん老朽化していってしまいます。私たちの普段の生活の多くが税金に支えられています。私は全ての人が正しく納めようと思えるように、税の使い道をもっと多く知ってもらって、税の大切さについてもっと多くの人が理解することが大切だと思いました。